

令和2年度使用小学校用教科用図書採択結果等について

採択地区名 庄原市

種 目	発行者	採 択 理 由
国 語	東書	文学・説明文等の教材内容が豊富である。単元の導入ページに単元で身に付けるべき力（目標）が示されている。「単元の問い」を示し、「問い」を解決することで学びを深める工夫がある。また、書くこと、入門期の内容がよく考えられていることや横書きの撥音も取り上げられており、基礎・基本をしっかり身に付けることができる。さらに、たくさんのグラフ、表などが提示されており、論理的思考力を育成する上で効果的である。教材との関連本や推薦本の冊数は全学年で459冊と4者の中で最も多く、読書意欲の向上や学校図書館との関連も期待できる。
書 写	東書	低学年において、「しよしゃたいそう」がイラストで示され、児童が実体験を伴いながら、姿勢を意識することができる。各学習過程の視点が示されており、課題解決的な学習を実施するための工夫がされている。書写の歴史等に関する資料等の内容も充実しており、日本の伝統的文化も学ぶことができる。また、硬筆では、手本を中央の位置に配置することで、左利きの児童も書きやすいような工夫がされている。さらに、他学年とのつながりを意図した系統的な内容となっている。
社 会	東書	単元ごとに「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習過程を詳しく示すことで、児童が見通しをもって学ぶことができる。また、「学び方コーナー」を適切に設け、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。さらに、写真やイラストなどの資料が分かりやすく、児童が社会的事象をつかみやすい。単元末には、学習したことを活用し、「どうあるべきか、何ができるか」などについて話し合う活動が設定され、思考力を引き出し、深い学びにつなげることができる。
地 図	帝国	各地方図とは別に、簡潔な地方図が10ページある。縮尺の説明も丁寧に行われている。そのため、入門期の児童にとって分かりやすく使いやすい。資料図も、テーマごとに見開きでまとめてあり、簡潔で分かりやすい。また、自然災害の発生地を示すだけでなく、防災への取組のページが充実している。索引も工夫されて、児童にとって使いやすい地図帳である。
算 数	東書	問題解決的な学習を充実させるため、「深い学び」につながるページを設け、児童にしっかり考えさせるとともに、全単元末には「算数の目～大切な見方・考え方」というページで整理してある。第4学年の割合の学習では、2つの数量の関係などに着目して捉えさせるために数直線を用いており、基準量を1とみて相対的な大きさを比べ、数量の関係を適切に読み取り判断する力を養うことができる。また、第1学年では、大判の別冊により入門期の指導を充実させている。さらに、「考える力をのばそう」「算数で読み取ろう」「おもしろ問題にチャレンジ」という発展的な内容の掲載により活用する力の向上が期待できる。

種 目	発行者	採 択 理 由
理 科	啓林館	学習の進め方や問題解決の過程が巻頭の見開き2ページに分かりやすく示されており、主体的に学習に取り組める工夫がある。また、問題に対する予想と計画などの例が詳細に示されており、科学的な言葉や概念を使用して自分の考えを論述する活動につながる学習内容となっている。さらに、他教科での学習を理科で生かす工夫や巻末に付された「観察カード」などの活用による身近な自然と学習内容との関連付けがある。
生 活	東書	児童に問いかけ、答えを示さずに、疑問や興味をもたせる展開となっており、自分で実際に体験、活動して主体的に学べる構成となっている。また、幼保小の円滑な接続において大切な要素であるスタートカリキュラムも充実しており、1年を通して、保護者の関わりを促すものにもなっている。さらに、A4判の大判で、巻末の資料も分かりやすく充実している。全体として、教科書から学ぶのではなく、教科書をきっかけとして主体的な学びを促すことをねらいとした内容になっている。
音 楽	教出	低学年の巻末に打楽器の基礎的な奏法について掲載されている。また、第4学年以上に大きな写真をふんだんに使っていたり、著名な芸術家からのメッセージも掲載したりしており、児童の学習意欲を向上させる工夫が見られる。第2学年から部分二部合唱を取り入れたり、全学年で英語の歌が取り扱われたりしており、多様な学習も充実しているため、児童の興味・関心を高めることができる。さらに、対話的な学びを引き出す「学びナビ」コーナーも工夫されている。見開きの大きくて雄大な写真はイメージを豊かにさせてくれる。
図画工作	日文	目標と振り返りが具体的で分かりやすく明確に示されている。すべてが見開き題材で、児童の自由で伸び伸びとした作品の掲載が多く、児童の創造力を高めることができる。また、絵、造形遊び、立体、工作、鑑賞のすべてがバランスよく配列されている。
家 庭	東書	小題材はすべて「見つめよう」「計画しよう・実践しよう」「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」の3つのスモールステップで示されているため、児童が見通しをもって学習に取り組むことができる。また、「生活を変えるチャンス」というコーナーがあり、児童が身近な問題から課題を発見できるような構成になっている。写真が大きく示されているため、児童がゴールイメージをもちやすいとともに、目標を達成するために、手順や方法などをしっかり考え、学習に取り組むことができる。さらに、学習内容を深めるためにプレゼンをするコーナーもある。
保 健	学研	「つかむ」「考える、調べる」「まとめる、深める」が見開きで配列されているとともに、単元末の振り返りが充実している。また、直接書き込むことができる資料が多く、考えを書く活動を充実させている。「体の発育・発達」では、色々な立場の体験談を掲載することで、児童が安心して思春期を迎えることができる。まとめの場面では、自分事として考えることができる工夫がある。さらに、関連する内容が書かれているページを知らせる表記が紙面の端にあり、学習内容を関連させることができる。言語活動に関しても、知識や体験をもとに友達と意見交流することができるよう工夫されている。

種 目	発行者	採 択 理 由
英 語	東書	<p>話すこと〔やりとり〕が見開きに必ず1回設定されており充実している。移行期間中の実践が活かせる。単語集が別冊としてあり、話す活動、書く活動に活用しやすい。また、単元には、身近なもの以外にも世界との関わりに関する単元があり、第5学年では「自分」「地域」「日本」、第6学年では「世界の国々」「世界と日本」「中学校への扉」と大きなテーマが設定してある。さらに、各テーマの最後には、既習事項を活用したまとめのページがあり、意欲的な学習が期待できる。</p>
道 徳	廣あかつき	<p>道徳教材として長く読み継がれてきた名作や心に染み入る作品が多く取り上げられていること、今日的課題について児童が身近な問題として捉え、自分との関わりの中で考え、悩み、葛藤できる教材も多く掲載されていること、効果的な挿絵や写真もあることなどから、児童の心を揺さぶり、より深い道徳的思考へと導くことができる。各発行者とも取り上げている共通教材について、自分自身の問題として考えることができるような言葉や文章表現等の工夫がされている。教材の終末において、「考えよう 話し合おう」で発問を示したり、第3学年以上に「学習の道すじ」として学習の見通しを示したりすることによって、児童が主体的に考え、学ぶことができる。「道徳ノート」が内容項目ごとに構成されていることによって、児童が自己の成長を実感することができる。また、指導者が「道徳ノート」の使い方を工夫することができる。</p>